

## 黒潮町消防団

### 夏季訓練

6月28日、伊田の黒潮消防署で黒潮町消防団夏季訓練を行いました。

今年は、全体で礼式訓練を行った後、3班に分かれ、普通救命講習、情報収集伝達訓練、災害図上訓練DIGの3種類の訓練を実施しました。

礼式訓練では、黒潮消防署員の指導の下、消防団員と女性防火クラブ員が真剣に取り組みました。特に、新入団員には、黒潮消防署員が入念に礼式の基本動作を指導し、団員の心も引き締められました。今回新たに盛り込んだ情報収集伝達訓練では、消防学校の教官をお招きして、建物火災を想定した訓練に臨みました。

DIG訓練は、高知県西部に震度7強の地震が発生したと仮定して、その時の消防団員・女性防火クラブ員の動きを確認するという内容です。他にも、地域の中で意

見を出し合い、避難誘導サインの設置希望箇所にシールを貼ってもらいました。

このDIGをするると、地域の特性が分かります。例えば、災害時に必要な備蓄物資や資機材などがどこに保管されているのかなどの情報が明確になります。また、模範的に災害を起こすことで、地震や風水害などの災害そのものの性質が見えてきます。訓練の結果を普段からの対策や備えに反映ができることが、DIGの主な利点です。

#### ●訓練まとめ

被災後72時間を過ぎると、人の生存率は大きく下がると言われており、南海地震の後には自分の動ける時間がどれだけあるのかが、家族、また地域住民の生死を分けることとなります。

次に起きる地震がどれほどのものか分かりませんが、どんな規模の地震が起きても1人の犠牲者も出さない町となるよう、町民全員で災害に屈することのない町にしていきましょう。



開会式



災害図上訓練DIG



情報収集伝達訓練



普通救命講習

# 高知県総合防災訓練

6月7日、高知県総合防災訓練が高知新港で行われ、黒潮町からは黒潮町消防団幹部が参加しました。

今回は中部が開催場所で見察が主となりましたが、消防団のほか、消防署や警察、自衛隊、日本赤十字社、電力会社や通信事業会社など、多くの機関が連携した大規模なものとなりました。

今回の訓練は南海地震が発生したことを想定したもので、家屋や車両からの救出訓練、トリアージ（優先度を付けた救護方法）の実施、救護所運営、情報伝達訓練や水防訓練など、普段はできない実践的な訓練を、関係各機関が連携して行いました。

また会場では、地域防災フェスティバルがあわせて行われ、関係者のほか、子どもから年配の方まで、幅広い年齢の方々が楽しく防災を学びました。

黒潮町消防団としても、改めて各機関の連携や災害対策について学ぶ機会となりました。



負傷者に対する救急搬送訓練



火災が発生した建物からの救出訓練

## 商工会・郵便局と 災害時協力協定締結

6月16日、黒潮町と黒潮町商工会が、災害時における応急対策活動や情報収集の実施に関する協定を締結。災害発生時に、町が商工会会員に、商工業施設などの被害調査や応急対策活動、応急生活物資の調達などを要請することが可能となりました。

また、6月19日には、黒潮町と町内の郵便局および土佐中村郵便局の間で、地震などの災害発生時に必要な対応を円滑に遂行するための協定書を手交。災害時に、車両の提供、避難所開設状況や避難先リストの情報交換、郵便業務の災害特別事務取扱などについて定めています。



上・黒潮町商工会の小笠原武会長と  
下・大方郵便局の夕部泰洋局長と。

## 8月30日(日)は「地域みんなで自主防災訓練」です

今年も南海トラフ地震を想定した防災訓練を県内統一で行います。黒潮町は各地域の避難訓練や安否確認訓練を中心に、住民の皆さんと、役場、消防団、消防署が合同で防災訓練を実施します。

### ▽訓練参加の際は以下のことを心がけましょう

- 「自分の安全確保」「家族の安否確認」「近所の方の避難誘導」など“身近なテーマ”を持つ
- 訓練して足りなかったことやおかしいことを見直す(反省点を次回に活かす)
- 何よりもまず“参加する”

非常時には普段当たり前にできることもできなくなります。ましてや限られた時間の中で適切な避難や救助をすると、さらに困難な状況となります。

自分のために、また、助きたい身近な人のために、訓練しておくことが“そのとき”への大切な備えです。備えることの必要性を理解し、防災訓練に積極的に参加しましょう。

○お問い合わせ 【本庁】情報防災課 消防防災係

☎43-2188(課直通)

【佐賀支所】地域住民課 総合窓口第1係

☎55-3113(直通)